

検査医学

【単位数: 0.5単位, 授業7コマ, 予備3コマ(定期試験含まず)】

当該科目は医師としての臨床経験を持つ教員が担当する授業科目である。

1 科目責任者

中山享之 教授(輸血部)

2 教育目標

(1) ねらい(Ⅲ-3-b)

- ① 臨床検査が臨床医学における診断・治療に検査手法を適用する科学であることを充分に認識し、理解する。適切な検査を選択し、結果を正しく解釈できる。
- ② 各種検査の方法、目的、適応、解釈を学ぶ。

(2) 学修目標

- ① 臨床検査の基準値・カットオフ値の意味が説明できる。
- ② 検査の特性(感度、特異度、偽陽性、偽陰性、ROC曲線、尤度比、検査後確率)を説明できる。
- ③ 検査の誤差や生理的変動を説明できる。各種の検査値への影響(溶血や全血放置など)を説明できる。
- ④ 検体の採取・保存について説明できる。検査の精度管理について説明できる。
- ⑤ 以下の各種検査の目的・適応と異常所見を説明し、結果を解釈できる。

一般検査(糞便検査、尿検査、髄液検査)、血液生化学検査(酵素、蛋白、含窒素成分、血糖、脂質、電解質など)、末梢血液検査、凝固・線溶検査、血清・免疫学的検査、動脈血ガス分析(酸塩基平衡)、微生物検査、細胞診

3 成績の判定・評価

(1) 総合成績の対象と算出法

	成績対象	割合	方法・コメント
定期試験	○	100%	多肢選択問題を基本とする。
態度	○	—	受講態度が不良の場合は、10点を限度に減点する。

出席: 定期試験を受験するためには欠席率が3分の1を超えてはならない。

(2) 合格基準

評価対象の合計が60%以上(又は60点以上)で合格とする。

(3) 再試験・再評価の方法

定期試験で60%未満の場合は、再試験を実施する。再試験は定期試験に準ずる方法で実施する(60%以上で合格)。

(4) 課題(試験やレポート)へのフィードバック

定期試験の成績についての総括を学内メールで実施する。

これにて理解が不十分な項目について再確認を促すとともに、定期試験で不合格となった者は再試験に備える。

4 教科書

書名	著者名	出版社	教科書として指定する理由
標準臨床検査医学	高木 康, 山田俊幸 編	医学書院	検査学を理解するための基本的内容が網羅されている。

5 参考図書

書名	著者名	出版社	参考図書とする理由
異常値の出るメカニズム	河合 忠他 編	医学書院	異常値の出るメカニズムが分かりやすく解説されている。

6 準備学習（予習・復習）

指定教科書を予め読んでおくこと（検査総論、生理検査、血液・生化学検査、一般検査、病理検査、遺伝子検査の頁。（トータルで3時間程度必要）。

7 授業計画

(1) 講義の方法

基本的に大教室での知識伝達型の講義であるが、講義中、講師との質疑応答などのアクティブラーニングを導入する。

(2) 講義の内容

各講義タイトルに準じ、必須内容をレクチャーする。